

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	本城ルーム		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ~ 令和7年 4月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ~ 令和7年 4月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 1日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの事を十分に理解し、個々の特性などに応じた専門性のある支援を提供	個々に応じて、達成したい目標に向けての課題や活動の提供	個別の担当制にして、より個々の特性に注目して、一緒に好きな物、興味のある物を見つけ、活動内容を決定していく。
2	活動プログラムを固定化していない	子ども達との会話の中からヒントを得て、やりたい事・行つてみたい場所などなるべく要望に応えられるようプログラムをたてる。	失敗を恐れず、職員間で入念な打ち合わせをし、チャレンジする。チャレンジ精神を大切にしている。
3	保護者に対しての連絡体制	連絡帳をなるべく詳しく丁寧に記載している。	活動の様子を広報誌・インスタグラムにてお知らせしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや児童館との交流、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	R4・R5年児童クラブの交流会を行っていたが、R6は、同クラブの閉所に伴い出来ていなかった。その他、放ディ交流会は毎年年に2～3回行っている。	今後も引き続き、実施していきたい。
2	父母の会の活動、保護者会等の開催・兄弟向けのイベントが出来ていない。	R4より保護者会に変わる施設見学などを企画してきたが、参加率は平均10名程度。	今年度、施設見学に加え、秋に保護者様を招いてのイベントや交流の機会を設ける。
3	非常災害の発生に備え、定期的な避難訓練。	地震・火災・不審者にわけて、年に3回行っている。	引き続き、行って行く。